

「藝大オペラ定期公演」は今年61回を迎えます。1956年に開催した第1回公演 G.ヴェルディの《椿姫》から現在に至るまで、多くの方の厚いご理解によって支えられ、一度として途切れることなく継続して参りました。今回も皆様への深い感謝と共に、学生の夢や希望が将来現実のものとなるよう、総力を結集して準備を進めております。素晴らしい音楽の魅力と時空を超えて繰り広げられる社会構造、男女の機微、そして赦しの美などをこの秋藝大奏楽堂で奏でられる《フィガロの結婚》で、どうぞご堪能ください。



第一幕 伯爵邸の一室

早朝。小間使いのスザンナとの結婚を今夕に控えたフィガロは、主人である伯爵がスザンナを自分のものにしようとしていることを知り、彼女を守る決意をする。フィガロとの結婚を夢見る女中頭のマルチェッリーナ、伯爵お気に入りの娘にまで手をつけた小姓ケルビーノ、スザンナを手に入れたい伯爵らが次々と現れ、混乱。ついに伯爵は、自由奔放に振る舞うケルビーノに罰として軍隊行きを命じる。

第二幕 伯爵夫人の部屋

伯爵夫人は夫の愛がさめたことを嘆く。伯爵をこらしめるため、フィガロは女装させたケルビーノと伯爵とを密会させ、その現場を夫人が取り押さえる、という計画を思いつく。これなら伯爵の邪悪な心を押さえ込み、スザンナと自分の結婚式も無事執り行われるはずだと自信満々。だが、ケルビーノの女装の最中にまさかの伯爵の登場。事態は混乱の極みへ。

第三幕 大広間

伯爵夫人はフィガロの計画を変更し、自らスザンナに変装して伯爵と密会することを決断する。一方フィガロは借金裁判に負け、マルチェッリーナとの結婚が避けられない状況に、と誰もが思った瞬間、予想外の展開が。やがて結婚式が始まり、厳かな踊りの中、スザンナは夫人の言いつけ通り密会の場所を書き記した手紙を伯爵にそっと手渡す。

第四幕 伯爵邸の夜の庭園

伯爵が受け取った手紙がスザンナからのものだと知ったフィガロは、 愕然とする。彼はスザンナに裏切られたと思い込み、仕返しをするため密会の 場所に隠れる。そこに衣裳を取り替えたスザンナと伯爵夫人が現れ、女たち の一世一代の芝居が幕を開ける。はてさて、この長い一日どのような幕 切れとなることやら。

STAFF

- ◇装置 川口直次 ◇照明 奥畑康夫
- ◇衣裳 西原 梨恵 ◇振付 安達 悦子
- ◇音響 岩崎 真 ◇舞台監督 佐藤 公紀
- ◇演出助手 小野寺東子
- ◇字幕 とよしま洋
- ◇合唱指揮·副指揮 千葉 芳裕
- ◇副指揮 佐藤宏充
- ◇コーチ

田中梢 (チェンバロ) 大藤 玲子 山口 佳代

- ◇コレペティートル 三ツ石 潤司
- ◇原語指導 エルマンノ・アリエンティ



〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8



交通のご案内

- ■JR 上野駅 (公園口)・鶯谷駅 (南口)、 東京メトロ千代田線根津駅より徒歩10分
- ■京成線上野駅、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅 より徒歩 15 分
- ■台東区循環バス「東西めぐりん」
 - 2 上野駅・上野公園から(東京芸術大学経由)
 - ⇒ 5-1 東京芸術大学下車 [30分間隔]

※駐車場はございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

チラシデザイン・挿絵:水本 紗恵子(演奏藝術センター)



ヒトにうれしいコト。

これまで、みなさまに「おいしさ」で 「うれしい」をお届けしてきた私たち、カルビー。 でも、「ヒトにうれしいコト」は「おいしさ」だけではありません。 "美しい 音色を聴いて、心が 潤う"ことも、 "素晴らしい絵画を見て、心が動かされる"ことも、 私たちの暮らしになくてはならないこと。 これからも「ヒトにうれしいコト」を、カルビーから。

掘りだそう、自然の力。

